

【磯子区】平成 30 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	平成 30 年 6 月 1 日（金） 10 時 50 分～12 時 00 分
場 所	磯子区役所 7 階 701・702 会議室
出席者	<p>【座 長】 加藤 広人 議員</p> <p>【議 員：2 名】 関 勝則 議員、山本 尚志 議員</p> <p>【磯子区：36 名】 小林 正幸 区長、井関 敏也 副区長、 新井 勉 福祉保健センター長、 岩元 隆道 福祉保健センター担当部長、 長谷川 秀 磯子土木事務所長、 ほか関係職員</p>
議 題	議題 平成 30 年度磯子区個性ある区づくり推進費の執行計画等について
発 言 の 要 旨	<p>【放課後児童健全育成事業】</p> <p>山本議員：子ども・子育て支援事業計画は平成 31 年度が最終年度になっているが、耐震化に対する対応や面積基準に対する対応など、今はどのような状況になっているのか。また、今年度は放課後児童クラブに対してどのような対策を取っていくのか聞きたい。</p> <p>大島こども家庭支援課学校連携・こども担当課長：現在補助の対象になっている学童クラブは、区内には 8 ヶ所あり、そのうち面積基準と耐震基準の両方ともクリアしているのは 2 ヶ所、耐震基準はクリアしているが面積基準はクリアできていないところが 3 ヶ所、耐震基準も面積基準もクリアできていない所が 3 ヶ所ある。そのうち、面積基準はクリアできていないが、定員数を若干少なくすることで基準をクリアできそうな所が数ヶ所あり、耐震基準について、これから耐震工事に入ることが決まっている所もある。現在基準をクリアすることが重い課題となっている学童クラブは、2 ヶ所と考えている。</p> <p>山本議員：課題については、31 年度までに解決できないことも想定されるが、区として現状をしっかりと局に上げて、今後もきめ細かく対応してほしい。</p> <p>小林区長：耐震化及び面積基準のクリアについて、出来るところは既にクリアしている。今クリアできる見込みがっていないのは、地域のな</p>

かで物件が見つからない、運営している母体の方の負担が大きいなどのクラブで、課題が大きく、厳しい状況となっていることは区長会などでも議論になっている。局の方とも、今後の支援策についてどのように支援していくのかについて議論を重ねているので、31年度までの達成に向けて努力をしていきたい。

【商店街にぎわいづくり事業】

山本議員：現在開会中の市会第2回定例会で、市税条例の一部改正が上程され議論されている。先日あった政策・総務・財政委員会では、生産性向上に資する設備投資に関する固定資産税の減免について、是非広く商店街の活性化に活用してほしいという意見が議員の皆さんからもあった。商店街の活性化に向け、こうした市税条例の改正についても可決された際は、区から商店街に対してPRしてほしい。

小林区長：新しい制度についても、商店街の方にも周知をしていきたい。

【「子ども食堂」に関する支援】

山本議員：開催回数について、どのくらいの回数をこの1年間に実施するのか伺いたい。

杉山こども家庭支援課長：平均すると月1回とか月2回ということが多い。できるだけ多く開催するのが望ましいと思うが、ボランティアの方が揃わずに、実施するというところは難しいところがある。また回数を増やすと、それだけコストがかかり運営資金の確保という課題もある。これについては前回、加藤議員から提案いただいているような幅広い寄付を募っていきたい。あとはボランティアの方からご意見をお聞きして、できることは社協と協力してやっていきたい。

山本議員：課題は私も認識しているが、ボランティアさんと一緒になってみんなで進めていくので、1年間に何回実施するという目標を立てて発信してほしい。

新井福祉保健センター長：できるだけ多くの回数を計画的に実施するのは、子どもにとっても安心できるという点で非常にいいことだと思っている。一方、人材の確保、スタッフがどれだけ集められるかというような課題もあり、なかなかすぐには回数を増やせないという状況がある。農林水産省が調査した「子ども食堂と地域が連携し

て進める食育活動事例集」の中に、全国の274の子ども食堂の運営者に対して行ったアンケートの結果がある。それによると、全国でも月に1回程度の開催に留まっているところが48.5%と約半分、さらに月に2回程度行っているところが24.5%、これらを合わせると約75%が月に2回までの範囲で実施しているというデータが出ている。また、課題として、現在そうした回数でやっている中でもスタッフの確保が難しいという課題の訴えもある。さらに回数を増やすと、その点が益々難しくなるという現状があるようで、スタッフを集めるということも含めて、私どもでできる支援もしながら、少しずつ着実に進めていくことも大事かと思っている。無理がたり、取組自体がなくなるということがあってはいけない。子どもにとっては取組があり続けることがまず第一。開催が決まっている日に行けば必ずやっているという意味では、安心できる場所であるということが第一だと思うので、地域の皆様の実情もお聞きしながら、私どもでできることをやりながら、少しずつでも着実に回数を増やしていく。そういう努力をしたいと思っている。

【磯子区寄り添い型学習支援事業】

山本議員：磯子区寄り添い型学習支援事業について、磯子べんきょう会という名称がこの中には書かれていないが、いいネーミングなので、もっと流行らせてほしい。

小林区長：わかりました。

【安全・安心で住みやすいまち】

山本議員：報告になるが、先日の政策・総務・財政委員会の中で、私から磯子区では防潮設備を設置していくことや総務局に対しては中央監視機能など様々な設備が地下にあるので、将来的で結構なのでこれを抜本的に見直してほしい、つまり区の災害対策本部になるところであり、将来の改修工事があるとするならば、それに見合わせた形での設計を進めてほしいということを要望した。また、そのなかで感震ブレーカーが話題になった。磯子区の場合、木密地域を中心としても結構だが、火災が起きた時の延焼を防止するためにも、感震ブレーカーの設置を区から各連合町内会長に働きかけてほしい。

小林区長：磯子区は木造密集地域を抱えており、そういった所で火災をいかに防ぐかということが防災上の大きな要点になるかと思う。そのため、感震ブレーカーが全世帯に設置されるということが理想的である。これまでも、局の補助の要件が厳しかったため、緩和に向けて働きかけてきたが、当初、申請にあたり、自治会町内会加入世帯の8割が必須だったものが5割以上になり、今は10世帯まともれば補助金を出すというように緩和されてきた。これについて区民の方に連合町内会あるいは単位町内会を通じてPRはしているが、なかなか設置が進んでいないのが現状なので、より感震ブレーカーの詳細についてPRをしながら設置・普及されるように取り組んでいきたい。

【保育園前の歩道の安全対策について】

山本議員：根岸のある保育園で、園児が歩道に出た際、横から走ってきた自転車にはねられ大けがをしたというようなことがあった。自転車と歩行者が同じ歩道を通行すると、そういったことも発生すると思うが、その自転車の方は、スマートフォンを見ながら走っていたようで、これは由々しき問題だと思う。まずはスマートフォンを持った自転車走行に対してしっかりと取り締まりや啓発をしていただきたい。また、規制をするという意味では歩行者と自転車道路を分離する、あるいは、保育園や幼稚園、小学校の前に注意喚起できるような規制のサインを作るべきだと思っている。私だけではなかなか思いつかないので、区や土木事務所にも考えてもらい、子どもたちの安全を確保するという意味でしっかり取り組んでほしい。事故に遭った子どもは、頭の打ち所も悪くなかったようだが、外に出るのを怖がっていると聞いている。是非、区として何か知恵があればお願いしたい。

苅部土木事務所副所長：具体的にこのような歩道への対策というのはなかなか難しいが、歩道への安全対策については個別にできることを引き続き考えていきたい。道路局が現在、自転車総合計画をつくっていて、それにもとづき様々な教育を進めていこうと考えている。具体的には、中学・高校あるいは高齢者も含め、マナーやルールを含めたパンフレットを作り、意識啓発に取り組んでいるところなので、

教育面からも局と一緒に進めていきたい。

【商店街にぎわいづくり事業】

【エリア別虐待防止連絡会】

関議員：まず始めに意見だが、商店街について、これはいつも話しているが、一生懸命朝市を継続していることは本当に有難いと思っている。ただ、商店街の方々と話すと、この朝市からどのように既存の商店街に足を向けてもらうということが1つの課題だと思っている。区役所も、マップを作成・配布し、商店街の場所がわかるようにしていて、非常に有難いと思っているが、引き続き検討を行ってほしい。それから、9月に商店街活性化の事例集が取りまとまるということなので、これも参考にしながら活性化に向けた取組を進めてほしい。また、南部市場跡地の賑わいゾーンについて、民間事業者が決まり具体化されていく。せっかく賑わいゾーンをつくるのだから、町づくりの観点からそこを拠点にし、観光客の導線の1つとして、横浜市南部に観光客を呼び寄せる素晴らしい事業になってほしい。そういったものを、すべてウイン・ウインな形で進めていける事業にするには、まず、地元の方たちがある程度情報を把握し、どのように賑わいゾーンと連携していくのかということが大事だと思う。経済局にも要望しているので、地元である磯子区としてもしっかり捉えていただいて、商店街の要望も受け止めながら、一層の取組を進めてほしい。

それから、2番目が児童虐待。この前も横浜市域内の虐待件数が増えたという新聞報道があったと思うが、磯子区の件数について数値がわかれば教えてほしい。また、今回エリア別でモデル実施をするということで、事業の中身を教えてほしい。既に始まっているのかどうかも含め、始まっていなければいつ頃始まるのか、まとめをどのような形で実施していくのか聞かせてほしい。

杉山子ども支援家庭課長：虐待件数は市全体の6,796件のうち321件が磯子区の件数である。モデル事業の内容については、区で関係者による実務者会議を年1回やっている。それを今回中学校区で実施し、3年間で7つの中学校区で考えている。今年度は、岡村中学校と浜中学校のエリアで実施し、7月が1回目、11月が2回目、2月から3

月にかけて3回目を予定している。7月の第1回目は、学校や保育園、幼稚園に連絡して開催に向けた協力をしてもらっている。

関議員：具体的に、有識者とはどういう方か。

杉山こども支援家庭課長：以前横浜市の児童相談所に勤務し、現在は明治学院大学の非常勤講師をしている武田玲子さんを、スーパーバイザーとしてお招きする。内容は、地域で多い養育支援のケースのタイプや、実態などをケース検討するもので、実際にケースが発生し関係機関と協議をしていくときに、この研修を通して身につけたものを活かしてもらうという趣旨で開催する。

関議員：321件の対応件数のうち、おそらくある程度の中学校区で何件くらい対応したかというのを把握できていると思う。そうしたケースを事例として、地域でどうしていくのかをこの3回で話し合っていくということか。

杉山こども支援家庭課長：個別ケース検討会議という関係者が集まり、今後どうするかを協議する場があり、岡村中学校や浜中学校のエリアで開催した実績がある。

関議員：国でも特別養子縁組の年齢が6歳から18歳に引きあげると聞いている。要保護児童や要支援児童というのは家庭で上手く生活できないとか、親の虐待があるということなので、このような子どもたちは、ほとんど施設から学校に通って来ることが多いと思う。これから事業を始めるのであれば、そうしたことを含め、総合的に虐待について地域でも取り組んでほしい。

【杉田駅・新杉田駅周辺地区バリアフリー基本構想に基づく案内サインの整備事業】

関議員：3番目は、先日説明してもらった総合案内サインについて、あらためて資料を見たところ、各特定事業者が設置した案内サインを補完することを目的に区役所が設置したと記載されている。聖天橋の信号の所とらびすたの交番前の2カ所に設置されているが、一つがこの資料で記載されている特定事業者が設置したもので、もう一つが区役所が設置したものという捉え方でよいか。もしそうであるなら、どちらを特定事業者が設置し、どちらを区役所が設置したのか教えてほしい。

佐藤区政推進課長：総合案内サインについては、聖天橋の所に設置している周辺案内図と書かれている青いもの。これは、区役所が28年度に設置したもので、総合案内サインと言っているが、実際は周辺案内図と表記されていて公共施設など周辺の案内をするために設置をしている。

関議員：交番の前にある緑色のサインは、らびすたができたときに作ったものか。

佐藤区政推進課長：そちらは、らびすたの再開発のときに設置したものになる。

関議員：商店街の話に戻ってしまうが、外国人観光客が来た際に郊外部の商店街へ足を向けてもらうため、多言語でパンフレットをつくるという取組に磯子区でも2ヶ所の商店街が手を上げてくれている。この総合案内サインの話聞いたとき、先取りしながら杉田駅前に設置してほしいと感じており、実際に聖天橋のサインを見たら、きちんと4か国語で表記がされていた。せっかく交通機関を利用してやって来た外国人観光客にとって、わかりやすいサイン板というのをつくってもらいたいと思っているので、既に取り組んでいるが、そういったことも加味して検討してほしい。

【磯子駅前再編整備に関する検討】

関議員：最後に、毎回話しているが、磯子駅前の再整備について。今のところ交通量の調査などの課題整理をしているところだと話を聞いている。いよいよ10月には対応の方策検討などが入ってくるが、ご承知のとおり、磯子駅前には老朽化したマンションがたくさんある。磯子駅は磯子区の顔となる駅であり、その駅前広場がどういう形になるかというのは注目している。また、駅前広場だけでなく、駅周辺も連携していかなければならない。一遍にやるのは勿論難しいし、機運の醸成に向けては、地域の方からも意見をもらわなければならない。そうしたことも加味し、まちづくりと連動した駅前広場というものを目指してほしい。

小林区長：磯子区の顔としての駅でありながら、その実態は大変寂しいものがある。そうした意味で、駅前広場を再整備するということは1つのきっかけであって、目的は磯子駅周辺の賑わいづくり、正にまち

	<p>づくりそのものだと思う。単に駅前の形状をどうするかということではなく、周辺の街並み、交通機関であるJRや工場群との連携も必要なので、そうした総合的な視点で駅前のまちづくりについて検討し、局とも連携し、また関係機関とも連携しながら進めていきたいと思っている。</p> <p>関議員：磯子事業会、議員団、区役所、地域の総意であるので、是非進めてほしい。もし、JRなどを動かしていくとなれば大きな力で、話や要望を持っていかなければいけない。様々な力を結集して磯子駅前の再整備に取り組んでほしいと思うので、是非力を合わせていきたい。</p>
<p>備 考</p>	<p><u>その他</u> <特になし></p>